

「嫌悪」を表す動詞の意味分析 —「うんざりする」と「飽きる」—^{*1}

愛知県立大学非常勤講師 馬場 典子^{*2}

1. 本稿の目的

筆者の研究テーマは、「マイナスの感情を表す動詞および動詞句の体系化」である。これまでの研究では、「怒り」を表す動詞および動詞句の性質を明らかにし、分析対象語句の意味分析を行った（「怒る、腹が立つ、頭に来る、むかつく、きれる、いきり立つ、憤慨する」など 19 語句）。その結果、「むかつく」が「怒り」よりも嫌悪感が際立つ語であり、「嫌悪」の感情と連続性があることが明らかになった。よって、現在は「嫌悪」を表す動詞および動詞句の性質および意味を明らかにすることを目指している。本稿はその一部に当たるものである^{*3}。

2. 感情を表す動詞の性質

2. 1. 先行研究概観

感情を表す動詞(句) (以下「感情動詞」という)に関する先行研究には大きく分けて二つある。まず一つ目は動詞における感情動詞の枠組みと位置付けに関するものである。先行研究を概観した結果、感情動詞をどのようなものと捉えているかについて、研究者間で統一が見られていないことから、感情動詞の動詞全体の中における位置づけが明らかにされていないことが問題点として挙げられる。例えば、町田(1989)では感情動詞は継続動詞に位置づけられているが、拙論(2009)で扱った分析対象語(句)から考えると、感情動詞は状態動詞に近いものもあり、瞬間動詞もあることになる。また、工藤(1995)は、感情動詞を内的情態動詞に位置づけているが、他の内的情態動詞—思考動詞・感覚動詞・知覚動詞—との関連性や、感情動詞の性質そのものについては述べられていない。また寺村(1982)では、品詞間の連続性の観点から感情動詞と感情形容詞との連続性が示されていたが、寺村(1984)では、思考動詞と感情形容詞とが「基本形で発話時点の感情を表す」という共通点を持っていると述べられており、同様の性質が感情動詞の一部に認められるにもかかわらず、その点に関しては言及されていない

*1 本稿は、平成 24 年度第 13 回言語教育研究会(2013 年 2 月 18 日於:愛知県立大学)で口頭発表した内容を加筆・修正したものである(発表の場で、中部大学の大門正幸先生、愛知県立大学の中西千香先生、宮谷敦美先生に多くのコメントを賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、頂いたコメントが全て反映できていないことをお詫び申し上げます)。

*2 名古屋大学大学院国際言語文化研究科学術研究員

*3 嫌悪を表す動詞および動詞句の考察対象は、現時点では「嫌う・疎む・うんざりする・飽きる・辟易する・げんなりする・愛想が尽きる／愛想を尽かす・しびれが切れる／しびれを切らす・顔をしかめる・眉をひそめる・虫酸が走る・業を煮やす・焦れる・気がせく・苛立つ・気が立つ・気に障る・気を揉む・腐る」などを予定している。

い。

二つ目は感情動詞の分類に関する先行研究であるが、堀川(1991)のように感情動詞の中に感覚動詞と思われる動詞(句)を混在させているものや、長野(1993)のように思考・感情動詞をひとまとめにして扱っているものがある。よってここでも感情動詞の枠組み自体が研究者間で異なり、統一を見ていない。このように、動詞における感情動詞の位置づけおよび感情動詞の性質は十分に明らかにされていないと言える*⁴。

2. 2. 感情動詞に関わる諸問題

2. 2. 1. 用語について

本稿では、従来「主体」と言われてきたものを「感情主」と「報告者」に分けて考察する。「感情主」とは感情を持つ主体を指し、「報告者」とは感情主の感情を観察して報告する人を指す。

2. 2. 2. 従来のアスペクト的意味としてのテイル形の問題点

まず以下の例を見て頂きたい。

- 1) a. 彼の自慢話にはうんざりする。
- b. 私は彼の自慢話にはうんざりしている。
- c. A子は彼の自慢話にはうんざりしているらしい／ようだ／みたいだ*⁵。

ここで問題とされる、「a.と b.の相違点は何か」、また「c.では何故テイル形が必ず必要なのか」については、従来のアスペクト的意味、すなわち「継続動詞のテイル形は「継続性」を表す」という説明だけでは十分とは言えないと思われる。そこで次節では柳沢(1994)によって提唱されたテイル形の「報告性」と鷲見(1996)の「テイル形の基本的意味」を取り上げ、上記の例の妥当な説明を試みる。

2. 2. 3. 非アスペクト的意味としてのテイル形の「報告性」(柳沢(1994))

柳沢の「報告性」の概念は、金水(1989)の「報告」に基づくものである。よってまず金水の「報告」の概略を以下に述べる。

金水(1989:123)は小説や物語の文を「語り」と呼び、日常的対話で聞き手にある状況を知らせる行為またはその言表を「報告」と呼んで区別している。そして動詞「悲しむ」の「報告」について以下のように述べている。

- 2) a <悲しい>という心的状態
- b 悲しげな表情や動作
- c 「ああ、悲しい」などの発語行為

「我々はaを直接知ることができない。しかし、bcは外部から観察可能である。(「山田はひどく

*⁴ しかし「感情動詞」全体を捉え、特徴を記述する作業はその範囲の広さからして容易ではない。よって拙論(2009)ではケーススタディ的に「怒り」を表す動詞(句)に考察対象を限定することにより、その特徴を具体的に把握することを目指した。その結果「むかつく」は嫌悪との連続性が認められ、「いきり立つ」は興奮との連続性が認められた。

*⁵ 1)cの文は、「うんざりしている」の後に「らしい／ようだ／みたいだ」のような後接成分があった方が容認度が上がる。詳しくは2. 2. 4. 1. で述べる。

悲しんでいた」または「山田はひどく悲しんでいる」という文で)報告されていたのは、bおよび／またはcということになる。逆に言えばbcが観察されれば「悲しんでいる(た)」と報告してもよい、ということである。」(同:125)(下線の括弧内は引用者による補足)。

柳沢(1994)は、上の金水の記述に着目し、「直接知ることのできない<悲しい>という心的状態を外部から観察可能であれば「テイル」で報告できる」という「テイル」の意味(機能)は、従来言われてきたアスペクトの意味にはなかったものだと主張し、この「テイル」形に対し、「報告性」という意味を提案している。柳沢(同:172)によるテイル形の定義を以下に挙げる。

3)①話し手は何らかの現象を観察している。

②言表は観察結果の報告である。

③言表は二次的な情報である。

また、柳沢(同:171)は以下のようなスポーツ実況の例を挙げている。

4)バッター打ってショートゴロ。ショート取って一塁へ送ります。

5)霧島、引きつけて出ます。寄った。寄り切り。

そして 4)5)の例をテイル形を使って言うと、臨場感に欠けた表現になってしまうと述べている。

6)バッター打ってショートゴロ。ショート取って一塁へ送っています。

7)霧島、引きつけて出ています。寄っています。寄り切り。

「観察結果の報告」とは、単に五感によって得た情報を述べるというだけでなく、観察によって得た情報を頭の中で処理した上で述べるということまでを意味する。つまり、テイル形は、言表が何らかの形で処理された二次的な情報であるということの意味する(同:171)。

柳沢はテイル形がスポーツの実況において使われないのは、「一次的な生の情報が、テイル形によって二次的な情報に変えられてしまい、情報の鮮度を落としてしまう(同:171)からだ」と指摘している。また、基本形*⁶やタ形は3)③において一次的情報を表すのに対し、テイル形は二次的な情報を表すことが、基本形・タ形とテイル形の違いだと説明している。

2. 2. 4. 鷺見(1996)「テイル形の基本的機能」

鷺見は、「感情・感覚や思考等内的状態を表す動詞は、基本形*⁷では話者以外を主体とすることができないが、テイル形にすると第三者を主体にすることが可能である」とし、なぜテイル形だけが話者以外の内的状態を表せるのかという理由を、「テイル形が継続相を表す」ということだけでは説明できないとする。以下は鷺見の挙げた例である。

8)わたしはわくわくする。

*太郎はわくわくする。

太郎はわくわくしている。(p.42)

そして鷺見は、(内的状態を表す動詞だけでなく)すべてのテイルの基本的機能について以下のように仮説を立てる。

仮説1:テイルの基本的機能とは「ある基準時におけるある事態の成立が確実であること

*⁶ 柳沢は「ル」形と表現しているが、すべての動詞が「ル」で終わるわけではない(例:嫌う、疎む、など)ことから、本稿では「基本形」という表現を用いる。

*⁷ 鷺見は「ル」形と表現している。

を話者が発話時に認知*⁸可能であることを表わす」ということである。

(p.44、下線は引用者)

さらに驚見は仮説1を話者の立場に置き換えて仮説1'を提示する。

仮説1' : 話者はある基準時におけるある事態の成立を知覚*⁹し、思考、判断を介して認知した時、その事態が確実であるとして聞き手に提示するためにテイル形を用いる。

(p.45、下線は引用者)

この2つの仮説を基に、驚見は内的状態を表す動詞のテイル形について次のように述べている。

内的状態を表す動詞の場合は、ある表情、態度、言動を知覚した話者がそれをある感情・感覚、思考の現われであると判断し、その感情・感覚、思考の成立を確実なものとして言語化する時、テイルを用いる。つまり話者の確信の高い推し量りを表すに過ぎない。

それがモダリティ的意味である。(p.57、引用者による要約)

驚見によれば、柳沢の「テイル形の報告性」とは、話者の高い推し量り*¹⁰という心的態度である「モダリティ的意味」を持つものだということになる。では驚見が挙げた3人称感情主の例を見ておこう。

9) 弁護士の試験に受からなかったので、彼はクサクサしている。(p.57)

報告者は、「彼」の表情や言葉から、「クサクサする」という感情の現れであると判断し、その「クサクサする」感情の成立を確実なものとし、「テイル」を使って報告するということになる。また、1人称感情主の場合について、驚見は次のように説明している。

一人称の場合、自分の内的状態を知るのに証拠は要らない。そこで、内的状態の知覚と同時に、何の思考、判断も介在させずに発話すればル形となり、逆に知覚してから自分自身に問いかけ、その思考、感覚の成立を確認したような場合であればテイル形となる。

(中略)たとえ、自分の感情であってもそのとらえ方にはレベルがあると言える。知覚のレ

*⁸ 「認知」については、驚見は池上(1993:745)を参考に以下のように定義している。「認知:ある事態を自分との関連の中でとらえ、その意味づけをする。より受動的な「知覚」に、より能動的・主体的な営みである「認知」が後続する。」

*⁹ 「知覚」についても、驚見は池上(1993:745)を参考に以下のように定義している。「知覚:ある事態を五感によって意識下におく。しかし、自分に関係づけたり、意味をとらえたりはしていない。」

*¹⁰ 驚見はテイル形による話者の確信度の高さについてニュースレポーターの例を挙げ、「銃声が聞こえています」という発話は「銃声が聞こえます」よりも、レポーターの確信がモダリティ的意味として表れているためインパクトが強いと説明している(p.59)。これに対し柳沢のスポーツ中継の例(本文 4)~7)では基本形の方がインパクトが強かった。このことは、伝えるべき情報によってテイル形か基本形かの選択が異なってくるものと思われる。「銃声が聞こえる」ことは正確さが求められる情報であり、他方スポーツ中継は、正確さよりも(あたかも視聴者がその場にいるかのような)臨場性を求められる情報だと言える。つまり、「認知」し確信度を増すことよりも「知覚」が重視されているのである。また、目の前で激しい銃撃戦が行われており、身の危険を冒しながらレポーターが中継する時には、「ものすごい銃声があります」より「ものすごい銃声がします」を用いるであろう。この場合はやはり正確さより臨場性が重視されるであろうし、身の危険にさらされていれば、「認知」しテイル形で報告する精神的余裕もなくなると思われる。

ベルで言語化したものがル形で表わされ、認知のレベルで言語化したものがテイル形で表現される。(中略)感情とは本来誰にとっても主観的なものであるが、その主観的なものを主観的に表現するか、客観的に表現するか、つまり、確認、判断を介在させず表現するか、介在させて表現するかがル形とテイル形の違いなのである。

(pp.58-60、下線および括弧内は引用者)

では驚見の挙げた1人称の例を以下に引用する。

10)A:「冷静だね。」

B:a. 「... そう見えないかもしれないけど、実はどきどきしてるよ。」

b. ??「... そう見えないかもしれないけど、実はどきどきするよ。」

(p.60、下線は引用者)

10)b.が 10)a.に比べて容認度が落ちるのは、自分自身の「どきどきする」という事態の成立を覚・認知したからこそ、(Bのことを)「冷静だ」と思っている相手Aに対してその判断を否定することができるのだと驚見は述べている。

本稿では以上で見た柳沢と驚見の考えを支持し、本稿の考察対象語(句)にテイル形を使用することを以下のように定義する。

テイル形の使用とは、「報告者が観察の結果、事態の成立を確実なものとして報告すること」である。

2. 2. 5. 「確信度が強い情報」と「確信度が弱い情報」

前節では驚見(1996)の「テイル形の基本的意味」を確認した。そして本稿では、テイル形の使用とは、「報告者が観察の結果、事態の成立を確実なものとして報告すること」であると定義した。つまりテイル形によって報告された情報は、「報告者によって認知された確信度が強い情報」である。これに対し、テイル形だけでは十分でなく、「らしい／ようだ」などの後接成分を伴った方が容認度が上がる場合は、「報告者による確信度が弱い情報」を表すと考えられる。従って本稿では「後接成分」を以下のように定義する。その際「みたいだ」も後接成分に含めるものとする。

「らしい／ようだ／みたいだ*¹¹」などの後接成分とは、「報告者にとって、テイル形で述べられるほど情報の確信度が強くない時に用いる表現」を指す。

2. 2. 6. 基本形に関する考察

町田(1989:42)は、感情動詞は、発話時点での感情の存在を表すには常にテイル形を伴わなければならないとしているが、本稿の分析対象である「うんざりする」は基本形で発話時点の感情の生起の状態を表すことが可能である。以下に例を挙げる。

11)子を勝手に連れ出そうとする義両親にうんざりする。

*¹¹ むろんこの3語が意味的に等価なわけではない。柴田(1982:87-94)は「ヨウダ・ラシイ・ダロウ」の3語を「推量を表す助動詞」として分析している。この場合、推量とは<事態の確信度について判断すること>を意味する。ヨウダとラシイについての記述をまとめると概ね次のようになる。ヨウダはラシイに比べ、<事態と話者との心理的距離が近い>。また推量の根拠については、ヨウダの方がラシイよりも<根拠の事実性が高い>。つまりラシイは<事態と話者との心

(<http://benrikosodate.blog.fc2.com/blog-entry-2935.html>)

12)部活は頑張ってるのかと思ったら、何となく行ってるけど(先輩が怖いから)つまんないんだって(小さい頃からの習い事に関する部活なのでそこそこは出来る)もう、覇気の無さ興味の薄さにうんざりする。(kosodatech.blog133.fc2.com/blog-entry-875.html?)

町田(1989:59)はテイル形と状態性の関連について、「日本語においては「ル」形で発話時点における状態を意味することのできる動詞が、その意味に含まれる「状態性」という観点から2つに区分されている。そして状態性の劣る部類の動詞については、「ル」形だけでなく、「テイル」形もが、「現在」を表示しうる。」とし、そのような性質を持つものとして思考動詞、知覚動詞を挙げている。町田のこの記述はすなわち、基本形のみで現在を表す状態動詞「ある」「要る」ほど状態性は強くないものの、「異なる」のような状態性に近いものもあることを示している。そしてこの性質は上記の「うんざりする」にも該当する。つまり、感情動詞の中には、状態動詞と連続性のあるものが存在するのである。このことはテイル形によってのみ現在を示すことのできる継続動詞—町田によれば感情動詞はここに位置づけられる—とは性質が異なることを示すものである。

2. 2. 7. 「感情動詞」としての性質—中道・有賀(1993)を参考に—

さて前節までは感情動詞のテンス・アスペクトに関して考察、整理してきたが、本節では「感情動詞」の性質について考察する。感情動詞と感情形容詞を含めた「感情表現」の分類に関しては中道・有賀(1993:85)に以下のような記述がある。

感情表現には、大別して、観察記述的な表現と、表出的な表現とが含まれるようである。たとえば寺村(1982)は感情表現を、「一時的な気の動き」「能動的な心の動き」「感情の直接的表現」「感情的品定め」の四種に分類しているが、ごくおおまかに言えば、オドロク・オロオロスル等の「一時的な気の動き」とバカバカシイ等の「感情的品定め」は、感情の主体や感情の契機となる事物を外部から描写する観察記述的感情表現である。一方、愛スル・憎ム等の感情の動詞を述語とする「能動的な心の動き」と恐イ・オソロシイ等の「感情の直接的表出」とは、どちらも観察記述的表現としての他に、話し手の感情を直接表明する表出的感情表現としても用いられうる。

(中道・有賀(1993:85)より引用者が一部要約、下線部は引用者)

まず、中道・有賀が引用した寺村(1982)の「感情表現の四分類」について簡単に触れておく。寺村によると、「嫌悪を表す動詞」は、「一時的な気の動き」(例:「～を嫌う」)と「能動的な心の動き」(例:「～にうんざりする」「～に飽きる」)に分類されると考えられている。しかし、本稿の「うんざりする」は、すでに前節で見たように「基本形」で発話時点の感情の存在を表すことができる。つまりこの点は正に、寺村の分類の「感情の直接的表出」に該当する。よって中道・有賀の記述の通り、感情動詞の性質はまず「観察記述的(感情の主体を外部から観察・描写する)」なものであり、動詞によってはさらに「表出的(主体の感情を即時的に述べる)」な性質を併せ持つということになる。例えば、「うんざりする」は1人称感情主の場合「表出的」に使える表現であるが、「テイル形(私はうんざりしている)」にすれば、それは「観察記述的」な表現となる。

理的距離が遠く > < 根拠の事実性が低い > ことになる。

ではここで改めて「表出」「観察記述」をそれぞれ以下のように定義する*¹²。

「表出」とは、基本形単独で感情主の感情を表せることを意味し、他のいかなる要素(例えば「よく」のような頻度を表す副詞や「太郎に(が)」の様な対象)も伴ってはならない。

「観察記述」とは発話時点の感情の存在をテイル形でのみ表すものである。

上記の分類により、「観察記述」的なもののみが、従来指摘されていた「感情動詞」の性質(町田(1989))に相当し、寺村(1982)の「一時的な気の動き」の特徴に相当することがわかる。

2. 3. 「うんざりする」と「飽きる」の性質

以上の考察を基に、改めて「うんざりする」と「飽きる」を見てみよう。「うんざりする」と「飽きる」には、以下のような共通点がある。

①3人称感情主の感情を報告する場合、「らしい／ようだ／みたいだ」のような後接成分があった方が容認度が上がる。

13) 彼女は毎度聞かされる友達の愚痴にうんざりしているらしい／ようだ／みたいだ。

14) 彼は刺激の少ない田舎の生活に飽きた(飽きている)*¹³らしい／ようだ／みたいだ。

②1人称感情主の感情を報告する場合も、基本形(またはタ形)で報告できる。

15) うんざりする！*¹⁴

16) 飽きた！

以上の共通点を表にしてみる。参考に拙論(2013)で分析した「嫌う」と「疎む」も表中に記す。

	3人称感情主 (後接なし○・あり×)	1人称感情主 (テイル形○・基本／タ×)
うんざりする	×	×
飽きる	×	×
嫌う	○	○
疎む	○	○

*¹² 拙論(2009)では、「表出」と「観察記述」の間に「準表出」という基準を設けたが、本稿の2つの動詞には必要がない基準であるため割愛した。

*¹³ 「観察記述」的なもののうち、「飽きる」は瞬間動詞であり、テイル形よりタ形の方が落ち着きがよい。また、「うんざりする」が問題なくテイル形を伴うのに比べ、「飽きる」をテイル形にすると多少許容度が落ちると感じられるのは、「飽きる」が瞬時性を表していることによるものと思われる。ただし、瞬間動詞でも「鳥が死んでいる」「車が止まっている」の様に結果の残存を示せるものはテイル形を伴うことができる。これに対して「飽きる」がテイル形よりタ形の方が落ち着きがよいのは、事態が瞬間的に生起し、なおかつその結果を残さないことによると現時点では理解している。しかし、この点についてはさらなる考察が必要である。

*¹⁴ この他にも、副詞成分のみで「うんざり！」という表現も可能であるが、今回は動詞「うんざりする」についてのみ言及する。

今までの考察からわかるように、感情動詞の典型的な性質とは、「嫌う」や「疎む」のように「1人称感情主でも3人称感情主でも「テイル形」を伴って報告できる」ことである。この観点から見ると、「うんざりする」も「飽きる」も3人称感情主の報告をする際、「らしい／ようだ／みたいだ」のような後接成分が必要である点、および1人称感情主の感情を基本形(またはタ形)で即時的に言い表せる点から、感情形容詞的な性質と類似している(例:「彼女は悲しいようだ」「もう嫌い!」)と言える。特に「うんざりする」は「飽きる」に比べ、基本形のまま1人称感情主の表出に用いられる点は、より感情形容詞的である。

ここまで感情動詞の性質を見た上で、「うんざりする」と「飽きる」の動詞としての性質について改めて確認した。次節以降はこの2つの動詞の具体的な意味分析を行う。

3. 分析

3.1. 先行研究

先行研究には柴田・山田編(2002)があり、以下のように記述されている。

【うんざりする】同じことが何度も繰り返されて、すっかりいやになること。「毎日の単調な生活に～する」

【飽きる】同じことが長い間続いたり、十分にありすぎたりしていやになる。「社員食堂のランチにはもう飽きた」「仕事に～」(p.174、下線は引用者)

柴田・山田の記述によると、「うんざりする」と「飽きる」の意味の違いは、同じことが「何度も繰り返される」ことと「長い間続いたり、十分にありすぎる」ことだとされている。つまり、嫌悪感が「ある事態がどのような状態になることで引き起こされるか」というプロセスの違いにあるとしている。しかし、柴田・山田の「うんざりする」に使われている例は「飽きる」に言い換えが可能である。

17) 毎日の単調な生活にうんざりする。

17)' 毎日の単調な生活に飽きた*¹⁵。

これに対し、「飽きる」で挙げられている以下の例を「うんざりする」に置き換えると、少し許容度が落ちるように感じられる。

18) 社員食堂のランチにはもう飽きた。

18)' ?社員食堂のランチにはもううんざりする。

よって以上の意味特徴の説明だけでは十分とは言えない。さらに実例を検討し、より詳しい意味特徴を抽出する必要がある。

3.2. 「うんざりする」の意味

本節では「うんざりする」の意味を分析する。まず以下の例を見てみよう。

19)9年付き合っている彼氏がいます。仕事の関係で今月まで3年半は遠距離恋愛をしていました。出発するときに『待ってほしい』と言われ帰ってきてからも、来年くらいに結婚しようと話していました。しかしこれまでも何度かあったのですが、結婚の話が現実

*¹⁵ *13 でもすでに述べたが「飽きる」は瞬間動詞であり、「飽きた」の方が自然に感じられる。

化しない状態です。(彼は31歳でこちらに戻ってきたと同時に新しい仕事を任せられ、忙しいそうです。)

実際来年出来るのか問えば、考える。。。のまま時間だけが過ぎて行きます。会うたびに私がそういう話ばかりするので、うんざりしているみたいです。

(http://www.genbu.gr.jp/genhp/files/unbbs1/oldsoudan/old6_101_120/musoudan114.html)

20)それにしても、トルシエさんには本当にありがとう、お疲れさま、と言いたいです。

彼、かなり日本のマスコミにうんざりしているみたいです。

そりゃね、ワールド・カップの直前も「ベルギー戦に負けたら解任」などという報道が出たし。ちょっと結果が出ないことがあると、批判されて叩かれて、解任、解任と書かたてられて・・・。

そりゃ、どこの代表チームだって監督というのは、ものすごいプレッシャーがかかる仕事だと思います。マスコミの目も厳しいでしょう。

(http://www.hpmix.com/home/chaton/C14_17.html)

19)の例は、「私」がたびたび結婚の話を持ち出すことに、「彼」はあまり快く思っていなかったと思われる。それが度重なることにより彼が不快な気持ちになっていると考えられる。また、彼は「結婚話がたびたび持ち出されること」に強い不快感を覚えているのだが、そのような話を持ち出す「私」をも不快に思っていると思われる(この点については3. 4. で詳しく述べる)。20)の例はトルシエ監督が、日本のマスコミに対してあまりよい印象を持っていないと思われ、それが試合で結果を出せないたびに批判され、「解任」と騒がれることに対して、不快な気持ちを抱いていると考えられる。

ただ、この2つの例の「具体的な結婚話」に対しても「日本のマスコミ」に対しても、感情主ははっきりとはじめからマイナスの印象を持っているとは断定しにくい。19)の例では彼(感情主)は彼女と9年つきあっており、「来年くらいに結婚しよう」と話していたのであるから、「具体的な結婚話」が出たはじめの1~2回ぐらいは、少なくともマイナスの印象はなかったはずである。また、20)の例では、トルシエ監督はマスコミに対して、はじめからマイナスの印象を持っていたわけではないと考えられる。マスコミは勝利した場合もインタビューを行い、トルシエ監督も過去にそのようなインタビューを受け、よい印象もマスコミに対して持っているはずだからである。

では、次の例を見てみよう。

21)あとはいよいよ出産を待つばかりの38週目。あーもうなんでもいいから早くでてくれな
いかしら、と思うことしばしば。いいかげん早くうつぶせで眠りたいよーと夜な夜な思う。
そんなときばば P のお兄さんのうちへ夕食によばれた。あんまり気分はのらなかつたが、
お義父さんお義母さんも行くと言うので一緒にいった。

こちらでは兄弟や親戚、友人のうちに昼食や夕食を招待されることが本当に多い。

初めて来たときに出す料理が決まっているらしくこのうちにいっても同じようなメニューだ。

はじめのころは帰国間もないということで毎日のようにあちらこちらのうちに招待されたのだけれど、毎回同じものしかでてこないのので内心うんざりしていた。ごちそうになっておいて失礼だが、それに正直どこのうちもすごく美味しいとは思えなかつた。

(<http://homepage2.nifty.com/zanbul/taizaiki.7.html>)

22)モニター経験者様の声（横浜市在住の鳥本様ご一家）

もう、よその水は飲めません！

ライフマイスターを使い始めて9ヶ月の鳥本様ご一家。水道水の消毒液くささや味のまずさにうんざりしていたというご主人様。

なんとか美味しいお水を飲みたいという一心で市販の浄水器を試したりもしましたが味は全然同じ。がっかりしていた時に同製品を知り、浄水器とはまったく構造が違うと触れ込みに、モニター制度が設けられていた為“試して見ようかな”と言う気に。そして使い始めてこれがビックリ。今までにない味のまろやかさ。実家が静岡なのでお茶を良く飲むのですが、実にうまいんです…。(以下略)

(<http://www.lifemeister.com/monitor.html> (下線部および括弧内は引用者))

23)私は可奈について、あまりいい話を聞いてはいなかった。

「可奈ちゃんね、この前うちのクラスの子のこと、『あの人さあ、私にすっかりだまされて、私のことすっかりいい奴だと思っているんだよ、間抜けだよねー』とかいってたよ」

「千葉も気をつけたほうがいいからね」

たしかに可奈は人の悪口なんかをよく言った。人を馬鹿にして笑うのだ。

「家のクラスの帰国子女のコ、服の趣味が信じらんないくらいダサダサなんだよオー」とか。

正直言って私は毎日のように彼女から人の悪口を聞かされるのにうんざりしていたが、可奈とずっといるうちに、あることにだんだんと気がついていった。

可奈は必死になって人の悪口を言っていた。

彼女の“悪口”は、用意してきたように唐突に出てくる。不自然なのだ。

(<http://jf.gee.kyoto-u.ac.jp/kucc/user/yuwk/yuwk9612/yu9612kn.html>)

21)～23)の例では、それぞれの例の中に、モノや事態に対して、明らかによいイメージを抱いていないとわかる言葉が記されている。21)はあちこちの家で出される料理に「正直ものすごくおいしいとは思わない」と感じているし、22)では水道水が「消毒液くさくまずい」と感じている。そして23)では、彼女(=可奈)から毎日のように聞かされる「悪口」を快くは感じていない。

以上のことから、「うんざりする」は<感情主が><あるモノや人や事態に対して><マイナスかもしくは中立的な印象を抱いていたが><それらが繰り返されることによって><強い不快感を感じる>ことを表す表現であると言える。しかし、その対象となるモノや人や事態に対して、感情主がはじめはどのように感じていたかは、実例で見たようにマイナスの場合もあるが、そうでない場合もある。よって、「うんざりする」という感情を引き起こす原因となるモノや事態に何を取るかという制約は緩いと言える。

次節では「飽きる」の意味を分析する。

3. 3. 「飽きる」の意味

まず以下の2つの例を見て見よう。

24)最近は土日以外はベジタリアンのような生活を続けている。すでに1ヶ月以上続けている。でも、なかなか痩せないようだ。痩せることだけが目的でこのような食生活をしているわけではなく、休みの日に購入する”食材”を無駄なく使い切るために考え出した食事のパターンに”はまっている”だけである。詳細を書くと侘びしくなるが、基本的に

飯とみそ汁(豆腐、揚げ、大根、人参、ジャガイモ、ネギ等を適当にいれる)”だけ”で凌いでいる。だが、不思議なことに”飽き”がこない。肉食はあんなに早く飽きてしまったのに。。。なお、外食はとっくに飽きている。しかし、他に誰もいない家で、一人のアジア人が細々と飯を喰い、みそ汁をすすっている姿は、侘びしくもあり、ある意味”不気味”なものかもしれない。。(おかげで食費は1週間で A\$30 以下だ。)

(<http://rock.earth.tohoku.ac.jp/saka-csiro/diary45/diary45.html>)

25)はじめにスリランカにきたとき、この通りの KFC に立ち寄ったが、今回も来てしまった。しかも同じ席に座っている。なんか、カレーに飽きてしまった感じ。さすがに1日5食6食カレーやカレー味の食べ物を食べていると、やっぱり飽きるな。自然とカレー以外のものに食が進んでしまうようだ。カレーに飽きている自分に気がついた。

(http://www5.airnet.ne.jp/tsuyoshi/t_diary/india2/diary50.html)

24)の例は、肉のものをたびたび食べて、もう食べてもおいしく感じなくなっていることを示している。また外食はこれまでたびたびしていたので、外で食べることに魅力を感じないといないと考えられる。25)の例は、スリランカに来たときにしばらくは現地のカレーやそれに似た味のものを食べていた。はじめはそれが新鮮に感じられたが、それが1日5回、6回と似た味のものばかり食べていることにより、はじめに感じたような新鮮さを感じなくなってくることを示している。ここで注目したいのは、この2つの例では、筆者は他人から勧められて、「肉食」や「外食」、「カレーやカレーに似た味の料理」を食べたのではなく、自分から好んで食べていることである。さらなる例を見て見よう。

26)もうグラコロ(引用者注;マクドナルドのグラタンコロッケバーガー)を食べまくったせいで、飽きてしまったよww かれこれ 10 個くらい食べたのかな??

友達と一緒に、家族に、持ち帰りに・・・ってほんとグラコロばっかだったw

(<http://d.hatena.ne.jp/aramoneat/20121128/1354091095>)

26)の例は、筆者が好んでグラタンコロッケバーガーが好きで自ら購入して食べていたことを示している。はじめの数回は「食べておいしい」と満足していたと思われる。しかし何度も食べている間に、はじめ感じたようなおいしさや満足感が次第に薄れてきたことを表している。

以上の3つの例は全て「食べる」ことに関する例である。感情主は、ある食べ物に対してはじめは好ましく思っており、自分から食べ物を積極的に好んで食べていたことが分かる。

さて、以下の例も「飽きる」対象が食べ物であるが、これらの例は文中に、「飽きる」前の状態が満足のいく状態であることが示されている。

27)冬の風物詩、ミカン。そのまま食べてもおいしいが、食べ飽きてしまう人もいるのでは。

簡単に作れて、いつもとは違った味が楽しめるデザートを、料理研究家の河合真理さんに教えてもらった。

(<http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=71904>)

27)の例は、「食べ(る) + 飽きる」という複合動詞ではあるが、「(ミカンを)そのまま食べてもおいしい」と表現している。つまりみかんが好きで食べると満足感を得られることを示している。しかし、「ミカンをそのまま食べる」という行為を続けていると、はじめのような満足感を得られなくなってしまうことを表している。次は、「はじめはおいしいが、何度か食べるとおいしいと感じられない」ことを明らかに示している例である。

28)機内食、もう飽きちゃった・・・という人

飛行機の機内食は、最初こそ物珍しさもありおいしく食べられますが何回か食べると飽きてしまいます。ビジネスで出張が多い方は特に、「もう要らない・・・」ということもありますよね。(http://nanapi.jp/795/)

さて、これまでは対象となるモノが食べ物であったが、「飽きる」は食べ物以外の対象にも用いられる。

29)小田急百貨店新宿店内にあるアクセサリー店「アガタパリ」の小山香寿美さんは「誰でも簡単に工夫できます」とアドバイスしてくれた。ガラスビーズのロングネックレス(9240円)は、数か所に結び目を作るだけで雰囲気が変わった。「手持ちの飽きてしまったネックレスでも、新鮮な印象になります」。

(http://www.yomiuri.co.jp/komachi/news/20121226-OYT8T00202.html)

29)の例は、もともと持っていたネックレスは気に入って買った品物であり、それを身につけることにより満足感を得ていたと思われる。しかしそれを長い間使い続けているうちに、もうそのネックレスに対し、買ったときのように心がときめかず、魅力を感じなくなってしまうことを示している。

次の例も見て見よう。

30)山の頂上に住んでいるので、いつも、花火は見下ろしていた。住んでいる町や隣県の花火は 部屋の窓から見えるおかげで、毎週、どこかのそらで咲いている花火には飽きているが、肉薄できる花火大会は少ないので福岡・芦屋へと花火大会を見に行きました。(http://www.uri.sakura.ne.jp/~okota/tabimenu/leg01b/0728/01.html)

30)の作者は、花火自体は好きであると考えられるが、山の頂上に住んでいるので、遠くに見える花火は毎週見ることができる。よってそれに新鮮な喜びは感じられないと考えられる。

ここまでの例でわかるように、「飽きる」は、食べるのに飽きる(=食べ飽きる)、使うのに飽きる(=使い飽きる)、見るのに飽きる(=見飽きる)など、意志を表す動詞と共に起している。よって感情主はある行為をはじめは自分の意志で行い、それを好ましく感じていたとすることができる。

また、「飽きる」はその誘因に人そのものを取ることもできる。

31)嫌いではないけれど、彼氏に内心「ちょっと飽きてしまった・・・」と思う時はありませんか？ 仕事も恋愛も長期化すれば、人はどうしても飽きが来てしまうのは仕方のないことかも知れません。女性が彼氏に「飽きちゃったかも・・・」と思う理由をまとめてみました

(http://matome.naver.jp/odai/2137647728179066701)

31)の例は、はじめは彼が好きで、つきあいを新鮮に感じていたが、恋愛が長期化すること(つまりつきあいが何度も繰り返されること)により、彼にはじめの頃のような新鮮さや魅力を感じなくなってしまうことを表している。また、「嫌いではない」と言っていることから、彼に対して嫌悪感を感じているわけでないことが分かる。

以上、「飽きる」について見てきた。ここまでの考察で、「飽きる」の意味特徴は以下のようにまとめられる。

飽きる:<感情主が><あるモノや人や事態に対して(またはある行為を行うことに)><もともと好ましさを感じていたが><そのモノや事態が繰り返されることにより(またはある行為を繰り返し行うことに)><はじめ持っていたような好ましさを感じなくなる>

見たように、「うんざりする」の意味特徴は、＜感情主が＞＜あるモノや人や事態に対して＞＜マイナスかもしくは中立的な印象を抱いていたが＞＜それらが繰り返されることによって＞＜強い不快感を感じる＞ことを表す表現である。しかし、その対象となるモノや事態に対して、感情主がはじめはどのように感じていたかは、実例で見たようにマイナスの場合もあるが、そうでない場合もある。よって、「うんざりする」という感情を引き起こす原因となるモノや事態に何を取るかという制約は緩いと考えた。では、「社員食堂のランチ」が「うんざりする」の誘因にあまり適切でないのはなぜだろうか。

それは、「社員食堂のランチ」を感情主が自ら選んで食べていたかどうかに関係があるからだと思います。つまり、感情主が、「社員食堂のランチ」をはじめは自分の意志で選んで食べたとすれば、はじめはそれに対してプラスの印象を持っていると考えられる。よって、「うんざりする」だと容認度が落ちると感じられるのである。ただし、他に食べに行く場所(選択肢)がなく、自分の意志とは無関係に社員食堂で食べざるを得ない場合は解釈が異なる。感情主が社員食堂で食べることを仕方なくまたはいやいや食べていたと考えれば、「うんざりする」の容認度は上がり、自然に感じられる。

次に、「飽きる」が＜あるモノや事態に対して(またはある行為を行うことに)＞＜もともと好ましさを感じていた＞という点を、次の否定文で確認してみよう。

37) A店のオムライスは何度食べても飽きない。

37)' ×A店のオムライスは何度食べてもうんざりしない。

37)の文は、感情主が自ら好んで食べているオムライスは、何度食べてもその魅力が衰えることはなく「(相変わらず)おいしい」と感じていることを表している。これに対し 36)'で「うんざりしない」ことは「おいしい」ことを意味しない。つまり非文になる。

さて、「うんざりする」も「飽きる」も誘因に直接人を取ることが可能であることを見てきたが、改めて以下の例を見て見よう。

38) 彼とは5年もつきあってきてもううんざりしている。

38)' 彼とは5年もつきあってきてもう飽きた。

38)'の「飽きる」の文の方は自然に感じられる。「恋人としてつきあい始めた頃のような新鮮さやどきどき感がなくなり、彼そのものに魅力を感じなくなった。しかし嫌いになったわけではない。」という意味である。これに対して「うんざりする」の文は「恋人としてつきあってきたが、彼のことがつくづく嫌になった。」という意味になり、彼に対しての嫌悪感が強く感じられる。そして、「彼」そのものを誘因とする 38)のような文は、文意は通るが、もう少し補足が必要と感じられる。それは「彼そのもの」より、もう少し具体的な「彼の属性」が「うんざりする」感情を引き起こしているからではないだろうか。38)の文を見たときに、「彼のどこにうんざりするのかわか」という疑問を少なからず感じる。たとえば、「彼のマイナス思考にうんざりしている」や、「彼の自分勝手な性格にうんざりしている」などの具体性である。これと似たような例が実例でも見られた。

39)思いやりのない彼氏にうんざりしています。(長文です)

初めまして、わたしは大学生の女です。

わたしの彼氏は「優しい」と周りから思われています。実際荷物を持ってくれたり、彼女以外の友達の分まで小さいものですが、奢ったりします。

ですが、「思いやり」がないのです。今辞書で思いやりの詳しい定義を調べたのですが、「相手の心情を察し、同情し気を配ること。」と書かれていました。彼にはそれが欠

如しています。なぜならわたしはもとから体調を崩しやすく、体が弱いのですが具合が悪くなっている時に心無いことをよく言うのです。

(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1465192669)

40) 教養の無い彼氏にうんざりした

(http://magazine.gow.asia/love/column_details.php?column_uid=00004334)

39)と 40)はいずれも「彼の思いやりのなさ」「彼の教養のなさ」という「彼の属性」が誘因となっている。そして感情主がそのいずれに対しても明らかなマイナスの印象を抱いていることが特徴的である。

以上、「うんざりする」と「飽きる」の類似点・相違点についてまとめた。これまでの考察から、「うんざりする」と「飽きる」の意味特徴は以下のようになる。

うんざりする: <感情主が><あるモノや人(または人の属性)や事態に対して><マイナスかもしくは中立的な印象を抱いていたが><それらが繰り返されることによって><強い不快感を感じる>

飽きる: <感情主が><あるモノや事態に対して(またはある行為を行うことに)><もともと好ましさを感じていたが><そのモノや事態が繰り返されることにより(またはある行為を繰り返し行うことに)><はじめ持っていたような好ましさを感じなくなる>

4. 今後の課題

「うんざりする」と「飽きる」の分析を通していくつかの課題が残された。まずは「飽きる」に「退屈する」に近い意味を、別義として立てるか否かという点である。今後「退屈する」との比較を通じて、「飽きる」の意味をより明らかにできれば、「退屈する」に近い意味を、別義として立てることも可能である。また他の動詞との比較という点では、意味が類似していると思われる嫌悪を表す動詞との比較(「辟易する」「げんなりする」など)によっても「うんざりする」と「飽きる」の意味特徴がさらに厳密に規定できる可能性もある。

また、今回は他のコーパス(『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』など)による例文の収集を試みたが、考察の中で有効に使用することができなかった。今後、このようなコーパスを積極的に用い、新たなテストフレームの構築を模索したい。

参考文献

池上嘉彦(1993)「訳者解説」『認知意味論』(レイコフ、ジョージ(1993))pp.745-763 紀伊國屋書店

金水 敏(1989)『報告』についての覚書』『日本語のモダリティ』(仁田義雄・益岡隆志編) pp.121-129 くろしお出版

工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』pp.5-220 ひつじ書房

柴田 武(1982)「ヨウダ・ラシイ・ダロウ」『ことばの意味3辞書に書いてないこと』(國廣哲彌編) pp.87-94 平凡社

柴田武・山田進編(2002)『類語大辞典』講談社

- 鷺見幸美(1996)「テイルの意味機能」『名古屋大学日本語・日本文化論集』第4号 pp.41-63 名古屋大学留学生センター
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』pp.139-154 くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』pp.65-182, 223-260, 313-358 くろしお出版
- 長野ゆり(1993)「感情表現の動詞『(誘因)ニVスル』の人称制限について」『日本学報』pp.51-61 大阪大学文学部日本学研究室
- 中道真木男・有賀千佳子(1993)「感情表出表現における副詞のはたらき」『日本語学』Vol.12, No.1, pp.85-93 明治書院
- 馬場典子(2009)「怒りを表す動詞(句)の意味分析」名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本語文化専攻博士学位論文(未公刊)
- 馬場典子(2013)「「嫌悪」を表す動詞の意味分析－「嫌う」と「疎む」－」『言葉と文化』第 14 号 pp.57-73 国際言語文化研究科日本語文化専攻
- 堀川智也(1991)「心理動詞のアスペクト」『言語文化部紀要』21 pp.187-201 北海道大学
- 町田 健(1989)『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 柳沢浩哉(1994)「テイル形の非アスペクト的意味－テイル形の報告性－」『森野宗明教授退官記念論集言語・文学・国語教育』pp.165-178 三省堂

実例出典

検索エンジン Google (<http://www.google.co.jp/>)

筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』

(<http://corpus.tsukuba.ac.jp>)

A semantic analysis of verbs that express “dislike”-“unzarisuru” and “akiru”

Noriko Baba, Part-time Lecturer, Aichi Prefectural University

Summary

The objective of this paper is to reveal the nature of two verbs that express dislike, “unzarisuru” (“get fed up”) and “akiru” (“get tired of”), and to perform a semantic analysis of the verbs.

There are various theories on the framework of the verbs that express emotions (hereafter, “emotive verbs”), and researchers have different opinions on it. In this paper, I verified the nature of emotive verbs based on my previous argument (2009). Then, I classified a portion of the verbs that express dislike using the test frame, which is believed to be effective. The result revealed that “unzarisuru” and “akiru” had the nature of an emotive adjective even though they are emotive verbs.

Previous studies on semantic analyses have concluded that the difference in the semantic nature between the two verbs was the “*process* leading to the emergence of the emotion of dislike.” In this paper, however, I assumed that the difference in the semantic nature between the two verbs was not the “*process*” but that it was caused by “whether the emotion holder (= person who has the emotion) initially had a positive impression or a negative impression about an object or a situation.” I verified this assumption using actual examples.